



International Institute of Multi-Cultural Studies

特定非営利活動法人

国際比較文化研究所

■ Newsletter ■

Vol. 13 No.6 2013年 3月

鷺の宮卓話

時は金なり (Time is money)

研究所理事長 太田敬雄

私たちは戦後の復興期から、高度成長期を経て今日に至るまで、時間はお金と同じくらい大切なものだから、無駄にははいけなと、何の疑いもなく信じて向上を目指してきました。元々西洋のことわざとしてあった“Time is money”を「時は金なり」と訳し、その言葉は私たちの大切な価値観となってきました。

この価値観を支えてきたのが、先ず交通手段の発展と大衆化でした。「より早く目的地に移動したい。時は金なのだから。」そのために鉄道が高速化され、道路網が整備され、自動車が大衆化され、船は飛行機に取ってかわられ、プロペラ機はジェット機へと変わってきました。

「日本時間」と言われ、遅れて始まるのが当然と考えられていた会議などの開始時間。その遅れは徐々に縮小され、今日では予定時間に始まるのが常識となってきました。

大変恥ずかしいことですが、実はこの原稿を書いている今日の朝、私が議長を務める会議の開始予定時間を勘違いしており、遅刻してしまいました。5分過ぎた段階で事務局から確認の電話がありました。私が若かったころには想像も出来なかったことです。それほど時間の感覚が変わり、「時は金なり」は単なる格言ではなくなり、「時間」は私たちを支配するようになってきたのです。

日本の電車の正確さは海外の人たちにも感心されるようになり、1分でも遅れると車内アナウンスで謝罪されるようになりました。

このように私たちは「時間」と「金銭」に、私たちの生活を支配されるようになってきました。現代の日本社会では、これは当然のことで、議長の遅刻など有ってはならないことなのです。

しかし、この価値観を大切にするために、実は

私たちはそれなりの代償を払ってきました。

それでは、時間を守るために私たちはどのような代償を払ってきたのでしょうか。時間を守るために私たちは人と人のつながりを犠牲にしたのではないのでしょうか。深い人間関係は時間で細切れにされた生活様式の中では維持できません。

私たちは予定の時間が来たとき、そこにあった人との関係を打ち切り予定の場に駆けつけます。こうして人は次々と大事な人との関係を断ち切ってきたのです。その連続で半世紀以上：「時間」を選択し続けた結果、私たちの世界には人とのつながりを喪失したときに起こる色々な出来事にさいなまれていきます。世代間の断絶、核家族、他者に対する無関心などすべての根底にあるのは「時間」を選択した結果ではないのでしょうか。誰にも看取られることなく、孤独死された人の事が頻繁にニュースに出てきますが、それこそ「時は金なり」を生活の基盤とし、つながりを断ち切ってきた私たちの生き方の…皮肉な言い方になりますが…完成した形ではないのでしょうか。

時間以上に大事な何かがある文化に触れてみると、私たちはそこに住む人たちの「時間に対するルーズさ」に気が付きます。そして、その文化社会を「発展途上国」などと呼び時間に対するルーズさを批判します。しかし、そう分類することで、彼らが時間以上に大事にしていることには気づかずに過ぎてしまいます。しかし、彼らの社会に触れ、彼らの生き方を見てみますと、そこには実に豊かな人々のつながりがあることに気付かされます。時間を守るために、生活に区切りをつけるのではなく、人との繋がりを大切にするから、時間を守ることは二の次になっていくのでしょうか。

私たちの社会にも時間以上に大切なものが有った時代は有りました。これまでの経済成長のために、ある程度は時間を大事にするしか無かったでしょう。しかし、今は「時間より大事な何か」にもう一度目を注ぎ、もう少しゆったりと家族や地域の人たち、人類すべての人々との繋がりを大切にして生きべき時代が来ているのではないのでしょうか。

認定NPO法人に向けて

前号でお知らせしましたように、今年度中の認定取得は叶わなくなり、二年後の取得に向けて準備を始めています。そのためには今年度と来年度の二年間に3000円以上のご寄付を年平均100人以上の方から受けなくてはなりません。(会員の皆様の会費はその中に含まれないことが確認されました。)それがパブリック・サポートの証明として求められている条件です。

研究所としては会員の皆様をはじめ、一般の多くの方々からサポートしていただけるような活動を続けていく所存です。理事会では認定を取ることが目的ではなく、あくまでも皆様に支えていただくNPOとしての本来の活動を続けることが認定につながるように心がけることを確認しました。地球規模の人間社会の平和な発展のための諸活動をお支え下さい。

なお、前号でお知らせしましたように、2011年度に頂戴いたしました皆様からのご寄付は一度お返し致します。お手数ではありますが、3月中にご返還の振込先口座情報をお送りくださいますよう、重ねてお願いします。3月中にご連絡の無かった場合は、2012年度のご寄付とさせていただきますので、お早めにご連絡下さい。なお11年度のご寄付を、そのまま2012年度のご寄付とさせていただきます場合は特にご連絡いただく必要は有りません。感謝をもって活用させていただきます。

～年明けの多文化交流～

2013年は三つの多文化交流で始まりました。

まず1月には26日から28日にかけての「釜山外大生との多文化交流 in ぐんま」を学生スタッフの活躍で実施しました。毎年夏に釜山で日本からの学生を受け入れて下さった釜山外大の皆さんを受け入れて群馬で実施したいとの思いで立ち上げました。韓国の大学が3月に新年を迎える関係から、1月に実施することになりましたが、この時期はこちらの大学生にとっては後期末試験の時期でした。そこで、群馬では週末の二泊三日だけの受け入れとなりました。

来日したのは釜山外大のイム先生と4名の学生。今年秋には軍隊に入る4名の男子学生でした。イム先生を含めた5名に7名の学生が合流して、温泉体験、餅つき、だるま絵付け体験、グリーン牧場見学、そして釜山外大の学生スタッフによる歓迎会を行いました。



餅つき前のひと時

スタッフの中心になってくれたのは県立女子大1年の脇さん、増井さん、そして高崎経済大学3年の岸さん。さらには東京で数日過ごした釜山外大のメンバーの案内を前橋国際大学4年の渡辺君が買って出てくださいました。

軍隊に入隊する前の学生たちに、何よりも良い思い出が出来たと、イム先生からは喜びの言葉をいただきました。

次に2月16日から17日にかけて、「多文化交流OG・OB会」が、安中の学習の森で一泊、草津で一泊を軸に開催されました。企画としてはOG・OB対象でしたが、多くの新しい仲間も加わって感動的な集まりになりました。高知や京都からも参加者が集まり、総勢20名ほどの充実した交流が出来ました。

この日は雪の後。雪のない国からの参加者にとっ



初日：学習の森に行く前に雪の太田家に集まった参加者

参加者は太田家での自己紹介後学習の森に移動。まずは全員で夕食作りから始まり、翌朝早く草津に移動。素晴らしい体験を共有できました。

スタッフは経大の岸さんを中心に、県女の清水さん、今井さん、脇さん。プログラム期間中は全員が協力し合って食事づくりからすべてを担当することで、いつも以上に絆が深まったようです。

解散のために高崎駅に集合した参加者が、「まだ時間がある」と、予定外ではありましたが高崎の町に繰り出していきました。その背中に「少しでも時間が有れば、皆と一緒に居たい」という思いが漂っていました。(3ページへ)



高崎駅コンコースで：これで解散…ではなく、これから高崎の街に繰り出して行きました

この二つの交流についての感想を両方のスタッフを務めた岸綾夏さん（高崎経済大学3年）からのメールから抜粋しておきます。

「今まで何度も多文化に参加してきており、もはや常連の私ですが、今回は本当に原点に帰った交流となったと思っています。人数が少ない分、その場ののりでなんとか乗り越えようとしてしまいましたが、今まで支えてくださっていた食事ボランティアさんや千景さんの存在の大きさをひしひしと感じました。

スタッフとして関わるようになってから、本来の多文化の形を疑問に思う時もありました。今回のように参加者が自然と真の絆を生み出してくれたことに心が震えました。これこそ、多文化をよさだと感じたのです。そして、学生の力だけでも、やっていけるという可能性も得られました。

（参加者を送り出した後、スタッフが集まった）喫茶店では自分にとっても予想外で泣いてしまうほど、今回の交流には感動しました。多文化に出会えたことで多文化の素晴らしさを共有できる「仲間」の存在がいるからなのかなとも思います。わきやなつのような頼もしい後輩ができて嬉しいです。

これからも、イム先生と太田先生のお話どおり、私自身、人との出会いをこれからも人生において宝物にしていきたいと思います。」

《以上、釜山外大との多文化交流から》

「人数も留学生も少ない中、思ったような交流会ができるのか…短い準備期間の中で葛藤がありました。みんなが集まった瞬間ふと肩の力が抜けたのが不思議な感覚でした。参加者の人たちの協力は、本当に助かりました。

昨日までの自分とは違う価値観を得られたり、新たなつながりを作れたり…多文化で感じることは人それぞれですが、すべて人たちが一緒に多文化を作り上げた事が何よりも財産です。

そして、努力が必ず報われる時があるのが多文化なんですよ。みんなの素敵な笑顔、忘れられないです。」 《以上、OG・OB会より》

3月4日から13日は「多文化交流 in マラン 2013」。15名の参加者の内、8名は静岡からの参加！4日に成田空港近くのホテルに前泊して参加者全員の顔合わせとオリエンテーション。



前泊で成田のホテルに集合した参加者

最初は少々堅苦しかったメンバーも、翌5日の成田ではすでに旧知の仲のよう。成田から台北を経てスラバヤで入国。そのままマランに向かい夜中過ぎにイジェンゲストハウスへ。

翌日はパートナーとなる学生と対面。早速



16組のコンビが出来て…



心の交流が始まる

▼パートナーとの自由行動へ。こうして始まった多文化交流 in マラン 2013 は、翌日には高校訪問、大学の日本語の授業参加、続いて日本語専攻の学生たちと「幸せ」について語り合ったりもした。

さらには夕食を一緒に作ったり、ホームステイを体験したり、新しく出来た動物園に遊びにも行った。

最後の帰国の日には、お楽しみ会。日本人参加者もマランの学生も気合の入ったパフォーマンスで盛り上げる。アツと言う間の一週間が過ぎて、大切なことを学んだ充実感に溢れて帰国の途についた。（感想：5ページ右下へ）

～まなばる通信～

2014年度に向けて

いよいよ2013年度生募集開始です

まなばるには現在、3歳児から社会人まで、延べ200名を超える生徒たちが通ってきてくれています。4月からはクラス数も増え、専属スタッフも増員。各クラス充実のレッスンを繰り広げていきます。

見学・体験随時可、もちろん無料です♪ちょっと気になるなあ…程度の気持ちで結構です。お気軽に遊びにいらして下さい！

学ぶことが、楽しいと思える経験。そんな中で得られる知識。人と過ごすことが、楽しくてしかたない時間。

子どもたちの豊かな経験は子どもたちの未来を支えます。まなばるを選んでくれれば嬉しいですが、まなばるでなくても良いのです。

大切な成長の時期に、一人でも多くの子どもたちが幸せいっぱい未来に繋がるような経験を積んでいてくれるよう願っています！

まなばるの Course Schedule

<英会話・英語> (未就学～大人まで)

◎こども英会話くらぶ

未就学：45分、小学生：50分

月謝4000円/レッスン週一回、月4回程度

◎会話+文法 英語クラス 小3～小6

月謝5000円/週一回 50分

◎個別指導 英語教室 中高生・大人

受講料 中高生 2000～2500円

◎個別指導 算数・数学

小1・2年 1回60分 週1回/月謝4000円

小3～6年 1回60分 週1回/月謝5000円

中学生 1回75分/2000円

他にも

◎中学生対象

5教科コース/英語コース/数学コース

◎不登校・ひきこもり支援

—学習サポート&相談室—

◎少人数制 中学5教科コース/数学コース

などなど、教育に関して何でもご相談ください。

TEL:027-386-8499 FAX:027-386-9000

MAIL: mail@manapal.jp

BLOG: http://manapal.gunmablog.net

—ご挨拶—

まなばる代表 太田琢雄

「学習」という行為によって、子どもの知識は増え、思考力は高まります。でも「心」は、それだけでは育ちません。家族や仲間を大切にしている優しい心、人のせいにするのではなく自分で責任を担う強い心、人と接することを喜ぶ心、逃げない心、嘘をつかない心、人生を楽しむ心— 良質な「心」は、豊かな経験によって育まれていくものです。まなばるは、勉強を「教える」ことと、子どもたちと向き合いその心を「育む」こと、その両方に真剣に取り組んでいます。「子どもと大人」「教えと育ち」が相互しあうこの場所で、子どもたちが学びと経験を積み重ね、艱難辛苦も乗り越えて、すこやかに成長していってくれることを願っています。

メールアドレス変更のお知らせ

まなばるのメールアドレスが変わります。新しいアドレス：mail@manapal.jp

以前のアドレス(manapal@auone.jp)は9月まで使用可能です。

時にはこんな活動もしています！

『みんなのフェスティバル @ ソシアス』

ジュン先生こと 日向野順子

無事？終了しました。

このお話を頂いてから数か月。

コンサートの出演依頼なんて、まなばる初！(笑)🙄

ジュン先生がバンドをやっていることを、知っている人がいたのかな？？とかw
チョット不思議な感覚でしたがw

英語のレッスンのなものいいので…と高崎市の方から連絡をいただき、レッスン…それならできるかな？と思ったのですが、依頼を頂いた「持ち場」の名前が『わくわくミニコンサート』だったのでw
なんだか歌うたいの血が騒いでしまい(笑)
普段、音楽活動をしている相手のギタリストさんと呼ばつけて(笑)子供向けなアニソンwを練習すること2回？w

そして、子供たちが喜びそうなクイズや踊りも盛り込め、太田先生・マツ君・かのかちゃんをマナパレンジャーで巻き込みwww
『アンパンマン ピップホップ風(あえて“風”w)』の振り付けを覚えてもらうなどwww

まなばる・キッズ英語くらぶのスタッフ総動員でw
初ライブをすることができましたw (次ページへ)



準備中のカノンちゃん、ジュン先生とマツ君



アフロ チェック中な太田先生

子供たちの良く知っている曲なら、
英語で歌っても退屈しないかも？！
と思ったので、日本語と英語両方で歌ってみました。🔑

こういうコンサートって楽しいね〜〜👉

そして…
もう一組、同じ場で楽しいコンサートをしてくれた
保育士ユニット『たかしぐせん』のお二人。

初めてお会いしましたが、すごく楽しい方々でしたw
漫才コンビのような二人の掛け合いも大爆笑！

まなばれんじゃーたちも、席に座ってコンサートを
楽しませていただきました！



「たかしぐせん」のコンサートに参加中のマツ君と太田先生
みんなでエビカニクス 中

めっちゃ楽しかったです！！！！

「たかしぐせん」のお兄さんたち、ありがとうございました😊

最後にジュン先生が大好きな「紙ひこうきの ” きっと僕は ”」
」を歌ってくれて、嬉しかったよお〜(*^*)v

またどこかでコラボできたらいいですね！！👉

最後にバルーンアートをされている NAO お兄さんに
こんな素敵な Rainbow with Anpanman を頂いてしまいま
した！



スゴイ可愛い！嬉しい！！！！

そばにいた子供たちに「ちょうだい！」って言われたけど
ゴメン！これはあげられないよお〜〜(T_T)w

というわけで、マナパレンジャーたちも普段は会えない
子供たちと触れ合えて、スゴ〜〜〜ク楽しい一日でし
た。

イベントスタッフのみなさん。
お世話になりました。

一緒に楽しんでくれた子供やお父さん・お母さん。
おじいちゃん・おばあちゃんにも…ありがとう！デス！

Jun 先生でした〜(°o°) (まなばるブログから)

多文化交流 in マラン 2013

感想は次回にと思っておりましたが、早速メールをくれ
た参加者がいました。ここに掲載させていただきます。

文教大学 江口奈々美

太田先生、10日間、本当に
お世話になりました！
どきどきしながらの参加でしたが、
先生のゆるゆるした感じで、
自分もリラックスできました(笑)
多文化交流 in マラン、楽しかったです！
…楽しかったの一言では表せないほど、
濃い時間を過ごすことができました。
毎日が新鮮で、身近にマランの暮らしを
感じることができて、素晴らしい友達が
たくさんできて、幸せです！
他の国にも行ってみたいです。
また、日本での多文化交流にも
参加したいです(*^*)
これからもよろしくお祈りします♪

☆会費納入とご寄付の感謝とお願い☆

会員の皆様はじめ、ご協力を呼びかけさせていただいた多くの方々から、思いをはるかに超えたサポートをいただき心から感謝しております。二年後の認定NPO法人格取得を目指して着実に準備と努力を続けて参ります。そのためにはお一人でも多くの方に国際比較文化研究所の活動を知っていただき、支えていただくよう努力を続けなくてはなりません。多文化交流の活動、まなばるの活動へのさらなるご協力をお願いします。いずれの活動も皆様のご協力なしには継続できません。支えて下さる方の輪がさらに広がるよう、お力添えをお願いします。

会費納入のご請求及び会費とご寄付の報告が遅れておりますことをお詫び申し上げます。

年会費は個人が2000円です。いつものように会費をすでに頂戴している方にも振込用紙を同封させていただきますが、これはご寄付下さる方のため、また新入会員をお誘いいただくための振込用紙です。**決してご寄付を強要するものではありません。**

会費・寄付（2012. 12. 25.～2013. 3. 17.）

＜敬称略・順不同＞

＜新たにご入会下さった方＞阿部洋一、ご入会ありがとうございます。より良いNPOとなるようお知恵とお力を貸してください。

＜会費＞奥田聖幸、石井七郎、阿部洋一、遠間徹也、森泉宏昭、工藤早恵、前田浩、近藤佳代（13）、太田玲子（12-13）、伊藤忍、カッコ内はお支払いいただいた会費の年度、それ以外のカッコの無い方は12年度分です。

＜インドネシア招聘・多文化交流＞森泉宏昭、菅ヶ谷由美子、ありがとうございます。

＜まなばる＞森泉宏昭、まなばるに大勢の子どもたちがウキウキしながら通ってきます。中学生が楽しそうに、真剣に勉強しています。

＜一般寄付＞黒田絢、阿部洋一、内田瑞穂、鶯澤米子、森泉宏昭、斎藤正幸、望月恵子、野口紀子、岩本謙・松江、原啓太、斎藤正典・和子、太田玲子、伊藤忍、親泊治、成澤希代子、前田浩、野口泰佳。ありがとうございます。皆様に支えられている幸せをしみじみと感じています。

編集後記： ◇卓話と話がダブりますが、年に一度インドネシアに行き始めて感じていることがあります。それは急速に発展していく社会の変化です。最初の頃と比べて車が増え、最初はほとんどなかった信号をあちこちで見かけるようになり、大きなマーケットが増えています。また、街を走るマイクロレット（小型バスのような公共交通を担う車）は年々綺麗になり、しゃれたレストランや喫茶店が年々増えています。日本の高度成長期に匹敵する発展と、あの当時の活力を感じさせられています。

その発展の勢いの中で、インドネシアの社会の豊かな人のつながりが少しずつ変化していることも感じさせられ、ゆったりとした時の流れの中で築かれている人の絆が少しずつ薄れている気がします。その先に有るのは今の日本が直面させられているような孤独な人々の増加ではないかと心配になります。豊かさの追求がもたらす心の貧しさ、人のつながりの希薄化。それを避けつつ発展してほしいと思います。10年後、20年後のインドネシアが何を、何を失うのでしょうか。失ってはならないものを指摘し続けることも、いわゆる高度成長を少し先に体験した日本の私たちに課せられている大切な課題ではないでしょうか。

私たちが巨大地震と大津波とを体験して初めて気づき始めた「絆」の大切さですが、それは最初から無かったのではなく、高度成長に突き進む中で捨ててきたものだと言うことを肝に銘じる必要があるように思います。

◇多文化交流の参加費を皆様の寄付で軽減できないかと真剣に考え始めています。学生を中心とする若い参加者にとって、10万円を超える参加費は大きな負担です。皆様のご支援で、例えば一人3万円か4万円を補助できるようになれば、もう少し大勢の人たちに、この貴重な経験をさせてあげることが出来るのです。そのためにもこの研究所の活動をもっと多くの方に知っていただく必要を感じています。皆様のご協力を

お願いします。

◇激動の中にあっても、2013年度が皆様にとって、良い年度となりますよう、また人類にとって平和な地球社会に向かって進展のある一年となりますよう祈念しております。（T）

Newsletter 発行：特定非営利活動法人国際比較文化研究所

事務所：〒379-0124 群馬県安中市鷺宮3413-3

電話：027-382-5998 FAX：027-382-6393

e-mail：mtharunac@xp.wind.jp

HP：<http://www8.wind.ne.jp/mthc>

MANAPAL ブログ：<http://manapal.gunmablog.net/e80854.html>

郵便振込口座番号：00510-0-61974 名称：国際比較文化研究所